

トシテ其記事ヲ尊重スベキ書デアル而シテ屬トシテノ記載ハナイケレドモ植物ノ羅丁名ニ其何物ナルカラ知ルニ必要ナル説明ト或物ニアッテハ圖解サヘモ加ヘテアル故其ノ命名ハ權威アルモノト看做サナケレバナラナイ該書ニ於テハ Male Fern ヲ Filix Mas (Filix ハ Fern 即チ羊齒 Mas ハ Male 即チ雄ノ意) Female Fern ヲ Filix Foemina (Filix ハ同上 Foemina ハ Female 即チ雌ノ意) トシテアル是レ單ニ植物ヲ羅丁名デ呼ンダト云フノデナク二名法ニヨリテ呼ンダモノト思ハレル然ラバ當然 Equisetum ガ屬名デアッテ而カモをしだ屬ニ對スル Dryopteris 以前ノモノナル故須ラク之レヲ採ッテ以テをしだ屬ノ屬名トスベキダト云フノデアル然シ未ダ一般ニハ用キラレテ居ナイ

○植物古名考(承前)

永沼 小一郎

(四) つぼすみれ

都保須美禮 萬十

今名 すみれ

(すみれ科)

是レハトリタテ、云フ程ノ題デハナイガ前題ノツバキトシテ茲ニ掲グルコト、シタ、香川景樹翁ノすみれ考ニ古歌ニ詠ンダすみれハ今云れんげさうデアル此花殊ニ美シクカバカリノ名花ガ歌ニ漏レンヤウヤアルトノ説ナレドカクテハ今云すみれヲイカニセンヤデアル、サレバ古ノすみれハ尙今ノすみれニシテれんげさうニハつちばりト云フ古名アリテ之レニフサハシキ歌サヘアレバサノミハウラムルコトヤアル況シテヤすみれ又つぼすみれノ語原ハ此花ノ形ノサナガラ工匠ノモタル墨斗ニ似タレバト壺墨入又ハ墨入ト云ヒ出ダセリトノ説アリサモアルベシ萬葉第十卷ニハ左ノ數首ノ歌ガアル

山吹の咲さたる野邊のつぼすみれ此春雨に盛りなりけり
茅花拔く淺茅が原のつぼすみれ今盛りなり吾戀らくは

はんのき (縮圖)

(C. S. Sargent氏ニ據ル)



Alnus japonica SIEB. ET ZUCC.

春の野にすみれ採みにと來し吾ぞ野をなつかしみ
一夜ねに來る

(五) はり 其一本 今名 はんのき (かばのき科)

古名はりハ今モはりのきト云ツテ紛レノナイヤウデ
アルガ昔ハ今云フはぎヲモはりトモ云ヒ又今云フは
んのきヲモはぎト云ツタトノコトデ其紛ラハシサハ
云フ斗リナシデアル多クノ學者ハ榛或ハ榛ト書イテ
アルノハはんのきデアルト云ツテアルガ廣ク考ヘテ
見ルトソナ區別モ宛テニナラヌヤウデアアル併シ中
ニハはぎヲシイノモ少クナイ之ヲ研究スルニハ榛或
ハ榛ト書イテ今ノはんのきニ紛レノナイノカラ初ム
ルコトニシヨウ此物ハ今モ僻地ニテスルヤウニ皮モ
材モ椋果モ皆染料トシテ古クカラ一般ニ用キラレタ
ノデ古書ニ其名ヲ見ルコトガ珍ラシクナイ例ヘバ天
武紀ノ朱雀元年正月ノ條下ニ「ヘリズリ 蓼摺ノ御衣サツ三具トアリ類聚國史ノ延暦十八年正月ノ條下ニモ蕃客以上蓼摺ノ衣ヲ
賜フトアリ其餘三代實錄ノ光孝天皇仁和二年十二月ノ條下ト鎮魂祭儀御巫云々ノ條下ト踐祚大嘗祭式ノ條下ナ
ドニアマタ見エ又染ルコトハ延喜式ニ委シク見エ僧尼令ニモ「蓼、柴、橡、墨此クノ如キ屬ハ當色以下各兼テ
之ヲ服スルコトヲ得」以上引書凡テ漢文ナドデアアル次ノ神樂歌モはんのきヲ染料ニ用キタ古イ例デアアル
さいばりに、ころもはをめん、雨ふれど、あめふれど、

雨ふれど、うつろひがたし、ふかくそめてば、ふかくそめてば、
是最古ノ謠曲歌デ有テ其歌ハ拾遺集ニハ次ノ如ク多少修正シテ之レヲ引カレタ

さいはりに 衣はすらむ 雨ふれど

移ろい難し 深く染めては

即元歌ニ染めむトアルヲ摺らんと改メラレタノハ詞ノ重複ヲ避ケタマデアアル、扱さいばりヲ神樂秘抄ニ「さいばりハ初萩也さいハ前也前ハ初ト云フ心也」ト解シテさいばりヲはつはぎト説キ又神樂入り文ニさいばりハ辟榛也トアリ勿論此兩説ノ用字ニ就キテハ萩ハはぎ榛ハはんのさノツモリデアアル然ラバはぎノ花ナドデ染メタ色ハ兎角移ロヒ易イガはりノ材ハ今モ僻陋ノ地デハ之ヲ細ク碎キ煎ジテ染ルノヲ見ルコトガアルガ其色ハ雨濕ヤ日光ニ強イト云フコトデアアルカラ茲ノはりモはんのさデ無ケレバナラヌ

神樂秘抄ニ萩ノ字ヲはりニ宛テタノハ降リテノ世ノコトナルガタメシハ最古クシテ播磨國風土記ニ

萩里ノ里、土中ニ井有リ、萩原ト名クル所以ハ息長帶日賣ノ命韓國從リ還リ玉フ時御船此村ニ宿タリ、一

夜ニ萩ノ根ヨリ生フルコト高サ一丈許リ、依テ萩原ト名ク、即御井ヲ關ク故ニ針間井ト曰フ文漢

茲ニはりト訓マセタル萩ノ字ハ倭名鈔鹿鳴草ノ條ニ萩和名波木ト註シタレバ義モ訓モ今云はぎナレド昔ハさ、リ通音ナレバ借テはりトナスコト針、榛、藁、播ノ字ノ本義如何ニ拘ハラズ凡テはりト訓ム如ク茲ノ萩モはりノ假字ト見テ義ハはんのさト見ルトキハ高サ一丈トアルニモ善ク合ヒ且人煙ノ稀疎デ在ッタ時代ニハ到ル處ニ平原林ヲナシテ居ッタガ人口ノ増加スルニ從ヒ平野ハ次第ニ開キ墾ラレ今ハ纔ニ田ノ畔ヤ路傍ノ並木トシテ田間ニ名殘ヲ留メテ居ルノデアアルカ、ル所カラ考フルトはりハ墾木デアアラウ本居翁モ榛ヲはりト訓マズはりのさト訓ムベシト云ハレ又ははぎハはりのさノ中略デアルトノ説モアル但今云フはぎノ語原ハ是レト別デ葉木ガ本音デはりハ轉音デアル

(六) はり 其二 灌木本

今名 はぎ

(まめ科)

萬葉卷第七ニ

不時に斑の衣服欲しき香衣服針原時ニ不有ね輶

人麿

此針ノ字ガはんのさノ假字デナイコトハ其はぎタル意ガ有リ々々ト歌ノ面ニ見エテ居ル又同書卷第一ニ大寶二年壬寅太上天皇參河ノ國ニ幸シ玉フノ時ノ歌

引馬野に匂ふ榛原入り亂り衣匂はせ旅のしるしに

奥麿

凡此歌程物議ノ多イノハナイ是レヲ昔ノ用例ニ從ヒ字ノ通サニはんのさナリト註シタノハ契沖、宣長、枝直、千蔭、守部、等ノ諸師諸翁デアルサウシテ其證トシテ萬葉中ニ芽子ノ歌ガ百五十餘首モ有ツテ皆花ノ咲散ナドヨミ雁鹿又露ナドヲヨミ合セタレド榛、針、波里ナド書ルノガ十首餘有レド皆花ヲヨメル事ナク雁鹿ナドヨミ合セタノハ一首モナイ、サレバ榛ハ今ノ萩デナク波里ト訓ンデ今はむの木トイフ者也ト云ツテアル、然ルニ馬淵翁ハ一時ハ十月ナルコト(二)處ハ古ヘ引馬ノウマヤドト云ッタノハ今ノ濱松ノ驛デ其野ヲ三方カ原ト云ツテ丘陵起伏シ今モ花咲くはぎノ多イコト(三)旅ニハ摺衣ヲ着ルコト古ノ習ヒナルコト等ノ事實ヲ列舉シ茲ニ衆說ヲ排シテ茲ノ榛ハ今ノ花サク萩ナリト斷案セラレタ如何ニモ(四)萬葉ノ如キハ多クハ後ノ筆者ノ手ニテ任意ノ字ヲ宛テハメタノデアアルカラ決シテ字ハ當テニナラヌ(五)又歌ニ「入り亂り」トアルノハはぎノ中ニ亂入シテワザト其花デ衣ヲ赤ク斑ラニ染ラセヨウトヤウニ聞カセタノガ興デアアル斯クテコソ歌ノ餘情モアルガソレヲはんのさノ染汁デ染ムルコト、見テハ餘リハ過實的デ且殺風景デアアルサレバ斯様ノ時ニハ今ノはぎ也トスルノガドコマデモ穩ナル說デアアル、又卷第三ニ左ノ歌ガアル

去來兒等倭部早く白菅の眞野乃榛原手折而將歸

黑人

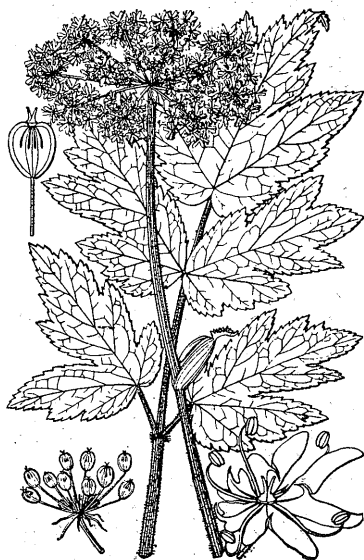
眞野ハ攝州八田郡郡ナリト云フ尙考フベシ

卷第七ニモ之ニヨク似タノガアルソレハ木ニ寄スト題シテ榛原、眞木柱、桃樹、桑、若楓^{わかしづき}ト伍シ次ニ花ニ寄スト題シテ山治^{やまぢ}左、垣津幡^{かきつぱた}、韓藍^{からるる}、芽子^{はぎ}ナドノ歌ガ列ネテアル此點カラ見ルトはんのさヲシクモアレド手折ルナドノ語モアレバヤハリはぎト見ルベキデアル元來榛ノ字ハ潘岳ガ詩ニ荆棘榛ヲ成スナドアルヨリ針ト訓マセタマデバ決シテはんのさニ當ル字デハナイ兎角古書ヲ解クニハ字ニ依ラズ事實ニ據ルノガ肝要デアル (未完)

○新ニ食用植物ニ入りタルはなうど

愛媛縣立西條中學校 小田 常太郎

はなうど (縮圖) (牧野富太郎氏ニ據ル)



新ニ食用植物ニ入りタルはなうど

牧野先生ハ吾人ノ常ニ敬慕シテ措カザル所デアル吾人ハ常ニ先生ノ指導ヲ仰ギツツアルモノデアルガ此度先生ノ懿^い遺ニ從ヒはなうどノ記ヲ草シ以テ聊カ御厚恩ノ萬分ノ一ニ報イントスルノデアル

はなうどハ繖形科ニ屬スル大形ノ多年生草本デアツテ學名ヲ *Heracleum lanatum* Michx. ト稱シ別ニ *H. barbatum* LEDER, *H. dissectum* LEDER, *H. Moellendorffii* HANCE. 等ノ異名ガアル和名ハはなうどノ外ニぞうじやうじびやくし、さがうど、くはずうど、やぶうどナド、呼ブ名ガアル長門ノ大津郡ナル通村^{カヨイムラ}ニテハ俗ニ之ヲ源吾兵衛ト云ツテ居ル是ハ昔源吾兵衛ト云フ人ガ始メテ此植物ノ食用ニナルコトヲ發見シタカラニ郷土ノ人々ガ夫レヨリ此植物ヲシカ呼ブニ至ッタト云フコトデアル吾人ニハ此卑俗ナル方言ガ甚ダ面